

調査コラム第 47 回 「往復書簡－柳宗悦と太田直行－」

(島根県古代文化センター長/間野大丞/2025 年 1 月 10 日記)

はじめに

はじめまして。島根県古代文化センターの間野大丞と申します。私は当センターで、平成 25～27 年度（2013～2015）に「近世・近代の石見焼の研究」を担当しました。このときに触れた「民藝運動」に魅せられて、門外漢でありながら、その後も細々と調査を続けています。今回は、調査のなかで見つけた新史料を紹介します。

1. 柳宗悦と太田直行

柳宗悦（やなぎむねよし）と太田直行（おおたなおゆき）。島根の民藝運動を語るうえで、このふたりの存在を欠くことはできません。柳宗悦のことは、みなさんよくご存じかと思しますので、太田直行について簡単にご紹介します。太田は明治 23 年（1890）、能義郡飯梨村（現安来市）の生まれで、大正 12 年（1923）から松江市に居を移しました。松江商業会議所に就職し、同所の専務理事として松江水郷祭を企画実現しました。昭和 6 年（1931）には、柳を招聘して「島根工藝診察」を行い、島根の民藝運動が始まる契機をつくっています。退職後は、島根県文化財保護委員や同県立松江図書館長を歴任し、昭和 59 年（1984）に亡くなりました。

ふたりの交流は、太田の著作（太田 1935・同 1979）と『柳宗悦全集』（柳 1989）に収録された書簡から知ることができます。今回、紹介する柳が太田に宛てた葉書は、安部榮四郎記念館（松江市八雲町）が所蔵しているもので、全集には収録されていない史料で

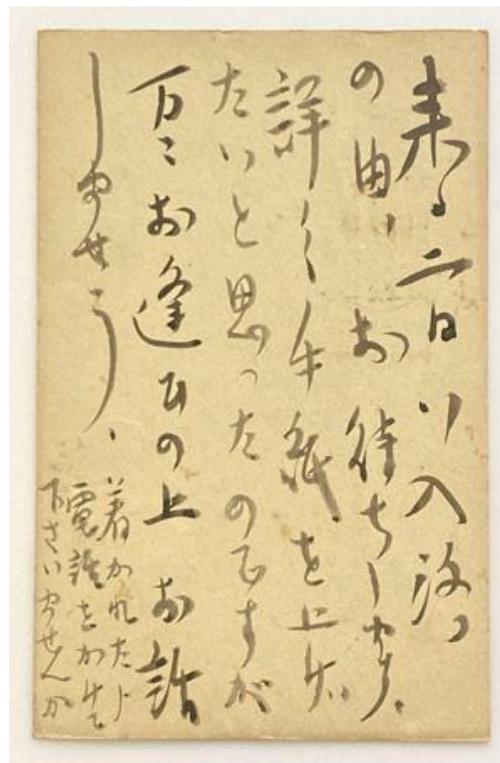
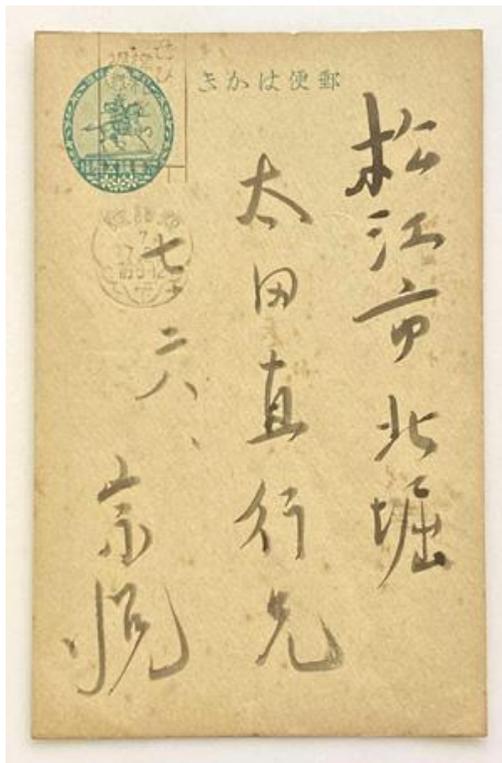
す。葉書は全部で96通あり、3冊のポケットアルバムに収められています。アルバムには、「昭和53年4月26日安部榮四郎」と書かれていますので、氏によって整理されたものとわかります。消印をみると、昭和3年3月7日付から、昭和24年7月21日付まであります。今回はこのなかから、昭和7年（1932）、柳が安来市の清水寺山内にある蓮乗院で執筆活動に勤しんだときの様子を伝える葉書を紹介しします（太田1935）。

2. 柳、島根への来訪を決意

柳は昭和6年（1931）年に2回、翌年に3回、松江を訪れています。なかでは、昭和7年（1932）8月17日～30日、安来の蓮乗院と松江での滞在がもっとも長いものでした。それでは柳は、いつ、どのような経緯で、蓮乗院での執筆活動を思い立ったのでしょうか。

昭和7年7月28日消印の葉書（資料1）には、8月2日に太田と面会することが書かれています。このとき、太田は直接、柳に島根への来訪を勧めたのではないのでしょうか。面会から10日あまり経った同月11日夜、京都駅で書かれた葉書（資料2）には、清水寺へ行くことを決意した、とあります。夜の京都駅で書かれていますので、柳は安来行きをずいぶんと逡巡したのかもしれませんが。そして、出発前の同月15日消印の葉書（資料3）では、安来に来るといふ太田に対して、「カーデュー」の水呑コップを持ってくるよう依頼します。コップの絵には「WINCH」の文字が読めます。「カーデュー」とは、バーナード・リーチの弟子、ウィンチコム・ポタリーを設立したマイケル・カーデューのことでしょう。柳はお気に入りのものをそばに置き、執筆活動に没頭したかったのでしょうか。

資料 1



柳宗悦書簡、太田直行宛（昭和7年7月28日消印）表、裏

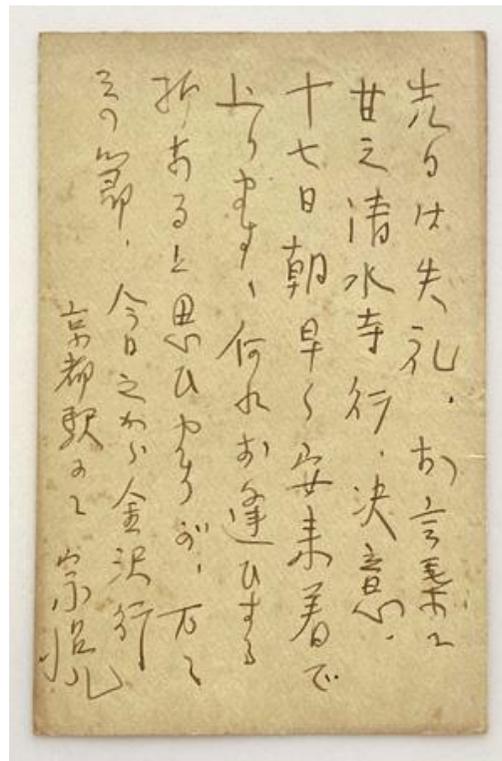
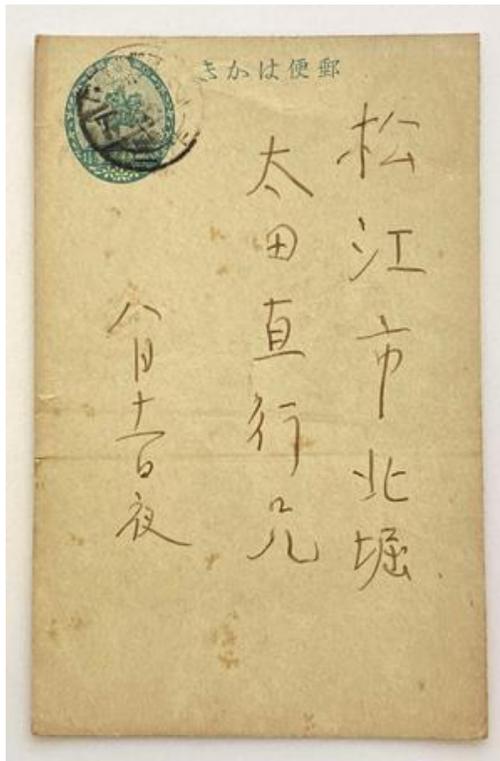
【消印】昭和7年7月28日 聖護院

【表】松江市北堀 太田直行兄 七、二八、 宗悦

【裏】

来る二日御入洛の由、お待ちします。詳しく手紙を上げたいと思いましたが万々お逢ひの上 お話ませう 着かれたら電話をかけて下さいませんか

資料 2



柳宗悦書簡、太田直行宛（昭和7年8月12日消印）表、裏

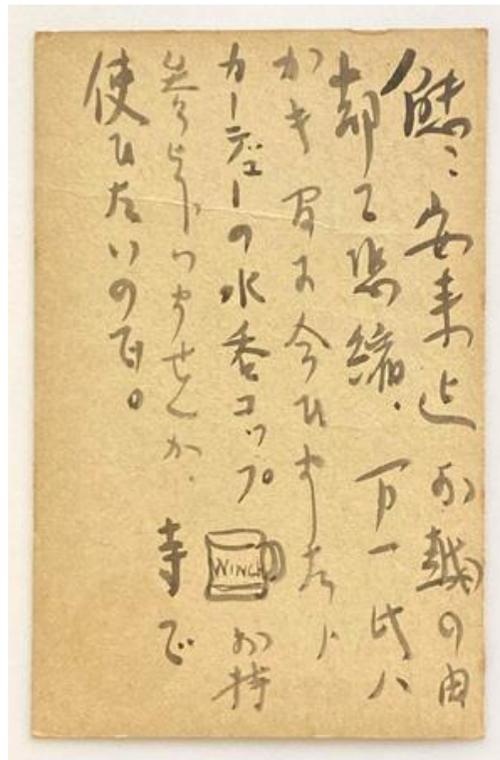
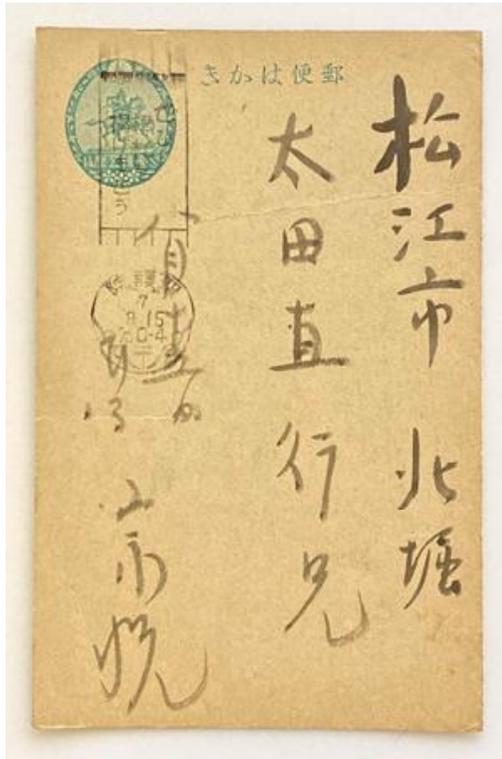
【消印】昭和7年8月12日（不明）

【表】松江市北堀 太田直行兄 八月十一日夜

【裏】

先日は失礼。お言葉に甘え清水寺行、決意、十七日朝早く安来着で上ります、何れお逢ひする折あると思ひますが、万々その節、今日之から金沢行 京都駅にて 宗悦

資料 3



柳宗悦書簡、太田直行宛（昭和7年8月15日消印）表、裏

【消印】昭和7年8月15日 聖護院

【表】松江市北堀 太田直行兄 八月十五日ひる 宗悦

【裏】

能々安来迄お越の由 却て恐縮。万一此ハガキ間に合ひましたらカーデューの水呑コップ（絵）お持参くださりませんか。寺で使ひたいので。

3. 柳、蓮乗院での日々に満足と…

柳が滞在中に残した2通の葉書から、蓮乗院への印象や来訪者との交流を知ることができます。8月20日消印の葉書（資料4）には、「一昨日は、お出かけいただき恐縮」と書かれています。太田の記録に、「8月17日 柳氏来松につき安来の河井方で民藝同人の小集を催した」とありますので、このときの礼を述べたものでしょう（太田1935）。文面からは、柳が蓮乗院の環境、寺のもてなしに満足していることもうかがえます。同22日消印の葉書（資料5）では、文筆に難しさを感じると吐露し、鳥取の民藝運動を指導した吉田璋也と太田のふたりに会えぬ寂しさも綴られています。資料4の裏面にも「御光来をまつ」と添えられています。滞在中に書き送られた2通の葉書は、人間味あふれる柳の姿がとくにうかがえる史料ではないでしょうか。

柳の思いが通じたのでしょうか。蓮乗院での滞在中も終わりに近い28日、柳を囲む宴が開かれます。「原本、森永、河井、遠藤と私等親子三人、遅れて鳥取の吉田璋也氏、安来の金田も来合せ、期せずして山陰民藝会の小集」が催されたのです（太田1935）。会いたがっていた太田と吉田のほかにも、市内から元安来町長で素封家の原本虎一郎、安来織作家の森永重治、木工作家の河井善左衛門（寛次郎の兄）、役場職員の遠藤理作、金工作家の金田勝造が参加しています。民藝運動の理解者たちとの宴は、さぞや楽しかったことでしょう。

資料 4



柳宗悦書簡、太田直行宛（昭和7年8月20日消印）表、裏

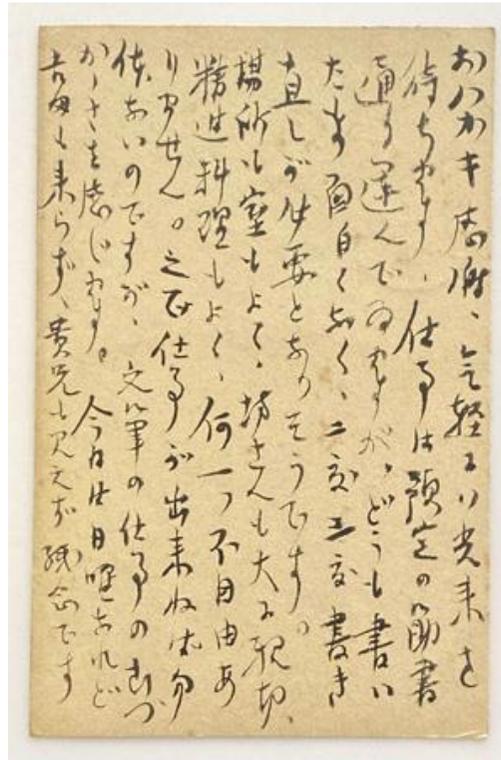
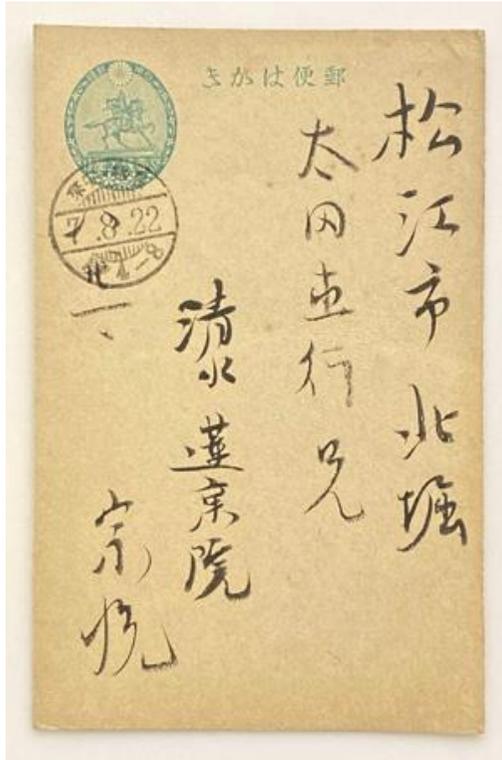
【消印】昭和7年8月20日（不明）

【表】松江市北堀 太田直行兄 清水寺蓮乗院 宗悦 八、一九、

一昨日は態々お出かけ頂き恐縮、お陰で何か出来そうです。寺も室も所も大に気に入ってゐます 何しても京都より涼しく悦んでゐます 谷岡によろしく

【裏】御光来をまつ（出雲）清水寺仁王門の絵葉書

資料 5



柳宗悦書簡、太田直行宛（昭和7年8月22日消印）表、裏

【消印】昭和7年8月22日 島根安来

【表】松江市北堀 太田直行兄 清水蓮宗院 宗悦 八 廿一、

【裏】

おハガキ感謝、気軽ニ御光来を待ちます、仕事は予定〔ママ〕の筋書通り運んでみますが、どうも書いたもの面白くなく、二度三度書き直しが必要となりそうです。場所も室もよく、坊さんも大に親切。精進料理もよく、何一つ不自由ありません。之で仕事が出来ねば勿体ないのですが。文筆の仕事のむづかしさを感じます。今日は日曜なれど吉田も来らず、貴兄も見えず残念です

4. 柳、蓮乗院から帰路に着く

蓮乗院での著作活動を終えた柳は、8月31日に松江を訪れています。太田は、「湯町、報恩寺、布志名及び袖師を案内し、夕方商工会議所にて民藝同人十数名が柳氏を囲んで晚餐を共にしてい」ます（太田 1935）。

京都に帰った柳が太田に宛てた9月3日付の書簡では、「今回は並らぬ御厚誼に沿し〔ママ〕却て恐縮致しました。お陰にて半月を静に暮し、筆硯に親み得し事をふかく感謝します。清水は色々思出が残る事と思ひます。（後略）」と書かれています（柳 1989）。また同6日の書簡では、「河井に昨日逢ひしところ蓮乗院の費用まで御配慮頂きし由で、此まゝでは少し虫よすぎ恐縮の至りに堪えません」とあります（柳 1989）。柳にとって、蓮乗院は記憶に残る場所になったようです。

おわりに

今回紹介した葉書は、柳宗悦が島根に滞在した足跡を伝える貴重なものです。書簡からは、柳宗悦と太田直行、さらには島根の民藝運動にかかわった人々との交流の姿が読み取れます。令和13年（2031）には柳の「島根工藝診察」から100年を迎えます。この大きな節目に向けて、調査研究が一層進展し、島根の民藝運動への興味関心が高まることを心から願っています。

（謝辞）

調査にあたっては、安部榮四郎記念館の安部己図枝さんから、ご高配を賜りました。ここに記して感謝を申し上げます。

参考文献

- 太田直行 1935「島根民藝年鑑」『島根民藝録』（太田 1987『島根民藝録・出雲新風土記』再録）
- 太田直行 1979「柳さんと島根県の民芸」『回想の柳宗悦』八潮書店
- 大多和弥生 2022「島根の民藝運動の始まり」『企画展 出雲の民藝－「健康な美」を求めて－』松江歴史館
- 河野克彦 2016「柳宗悦の工藝診察と喜阿弥焼」『いわみもの 暮らしを形づくる石見のやきもの』島根県立古代出雲歴史博物館
- 熊倉功夫 1989「解説 柳宗悦の書簡」『柳宗悦全集著作篇第 21 卷下』筑摩書房
- 島根県立美術館 2012『民藝 mingei－手仕事の美』
- 松江歴史館 2022『企画展 出雲の民藝－「健康な美」を求めて－』
- 間野大丞 2022「温泉津の窯業」『港町温泉津の景観と変遷』島根県教育委員会・大田市教育委員会
- 柳宗悦 1989『柳宗悦全集著作篇第 21 卷上』筑摩書房
- 柳宗悦 1989『柳宗悦全集著作篇第 21 卷中』筑摩書房
- 柳宗悦 1989『柳宗悦全集著作篇第 21 卷下』筑摩書房
- 山本麻代 2020「金工家金田勝造の民藝運動以降の制作について」『島根県立美術館研究紀要』第 1 号、島根県立美術館